

令和2年度小規模総合学科による地域と連携・協働した高校魅力化推進事業に係る学校視察報告

日時 令和3年2月16日（火）

場所 高知県立佐川高等学校・高知県立須崎総合高等学校

高知県立佐川高等学校

対応 総務企画部長 大原 信男 様

1 学校概要

全日制普通科。2年次より「教養系」「文・理系」の二つのコースに分かれる。総合的な探究の時間は校是に則って「いのち輝け～さくら咲くプロジェクト～」と名付けられ、3年間を通じて「地域」に焦点を当てた体験型課題探究プログラム。地域連携を主に担当する部署は総務・企画部。

また、「地域マネジメント部さくらガールズ」という部が存在し、佐川市役所等と連携した「ふるさと納税返礼品企画」（総合学習との協働）や「酒蔵カフェ」の運営、企業連携など、多岐にわたる地域連携活動を行なっている。

2 総合的な学習（探究）の時間における取り組みについて

中学生の都市部への進学による生徒減少および高校卒業後の都市部流出への問題意識から、地域定住意識を醸成するために地域への愛着・地域貢献等をねらいに据えて、3年間共通して「地域」について探究する。

・1年次「地域の魅力を探る」

地域活動本部事業として「地域おこし協力隊」の方を2名、支援員として配置しており、その支援員が地域講師の調整、招聘などを行なっている。

1年次5月に「アイデアソン」と称して、終日時間をとり、地域の方と共に地域の魅力について話し合いを行なう時間を設けている。その内容をふまえ、9月～11月に現地調査を行なう。

探究学習の導入より、地域の方に参画してもらうことで、地域の生の声、大人の意見を取り入れることができるとともに、協力体制も整備される。

・2年次「チームで課題研究」 3年次「地域の未来への提言」

地域の現状と課題を整理した上で、地域の方と協働しながら地域課題の解決や地域振興に取り組む。

また、2年次7月に実施するインターンシップでは、コンタクトから生徒自身が行なう。

学習成果発表会では、質疑応答の時間が確保され、毎年地域の方から多くの質問が出る。そのため、生徒達はできる限りの事前準備を行なおうとしている。

成果発表のための探究とならないように、年次をまたいで同じ研究活動が引き継がれ、長期的な取り組みとなっている事例がある。引き継いでほしい研究を下年次にプレゼンする時間があり、引き継ぎは下年次の希望制。

3 「地域マネジメント部さくらガールズ」について

総合の時間などの授業の一環としての地域連携にとどまらず、自由な発想で広く地域と連携することを目的として2019年に立ち上げられたユニット。2020年には全校生徒の4分の1にあたる27人が所属し、同年同好会に昇格。2021年度以降「地域マネジメント部」に昇格し、地域活性化の一翼を担っている。「何のために学ぶのか」を生徒自らが考えることができるよう、体験のチャンスを多く設定し、生徒の主体的な学びを提供する場となっている。

これまで主に以下のような活動が行なわれている。詳細については資料「地域マネジメント同好会さくらガールズ」活動・計画をご覧ください。

- ・マルナカ須崎店「黒潮市場」リニューアルプロジェクト
- ・バス停リニューアルプロジェクト
- ・センタンミーティング参加
- ・ふるさと納税返礼品企画（総合学習との協働）
- ・販売甲子園参加
- ・酒蔵カフェの運営
- ・町歩きガイドの実施
- ・企業連携（ローソンコラボ商品・JR 四国との旅行企画）
- ・トマトブランディング計画
- ・花生けバトル
- ・中学校への学校説明会



生徒の主体的な姿勢のもとで運営されている。

諸活動はメディア取材を積極的に受けている。・・・生徒の有用感醸成・連携先の広がり。

さくらガールズの活動を知って、佐川高校へ入学する新入生が出始めている。



高知県立須崎総合高等学校

対応 教頭・教務部長（学校概要）、1～3学年主任（総合的な探究）、家庭科・商業科教諭（地域連携）

1 学校概要

令和元年度（平成31年）より、「高知県立須崎工業高等学校」と「高知県立須崎高等学校」が統合して誕生した。普通科と工業科を併せ持つ全日制・定時制の学校である。工業学校としての専門性も備えつつ「地域の進学の拠点校」としての役割を持つ。地域連携、防災教育に力を入れている。統合し現在の形になってからの学校運営についてまだ手探りといった状況のよう。

2 防災教育について

海に面した土地柄である。災害時に地域のために力になれる人材の育成を目指し、防災学習が行われている。美術部で誘導看板を制作したり、家庭科の授業で子どもたちに向けた絵本を作ったりと、地域との連携も図っている。

3 総合的な学習（探究）の時間における取り組みについて

企画調整部の大枠のもと、学年主任が計画し、指揮をとる。一年生は主に職業や自己の進路、2・3年生は地域活性化や防災、社会の現代的な課題から探究課題を設定する。各自の探究テーマに入る前の活動では、地元の食材や人材、特色、身近な問題にスポットを当てた課題が多い。（1年生「地元自慢プロジェクト」、2年生「学校活性化プロジェクト」など）

4 地域連携について

商業科の授業（簿記・マーケティング・情報処理）ではスーパーや鉄道会社などの地元企業との連携をし、商品開発やプレゼンテーション力を高めている。また、外部講師として地域に関わりのある方を招いての講話も企画している。

家庭科の授業（家庭基礎・フードデザイン・生活と福祉・子どもと文化）では、須崎市役所の健康推進課や社会福祉協議会、菓子店や生花店などと連携している。地域の和食専門店の調理の方を招いて特産物を使用した調理実習を行うといった学習活動が展開されている。

